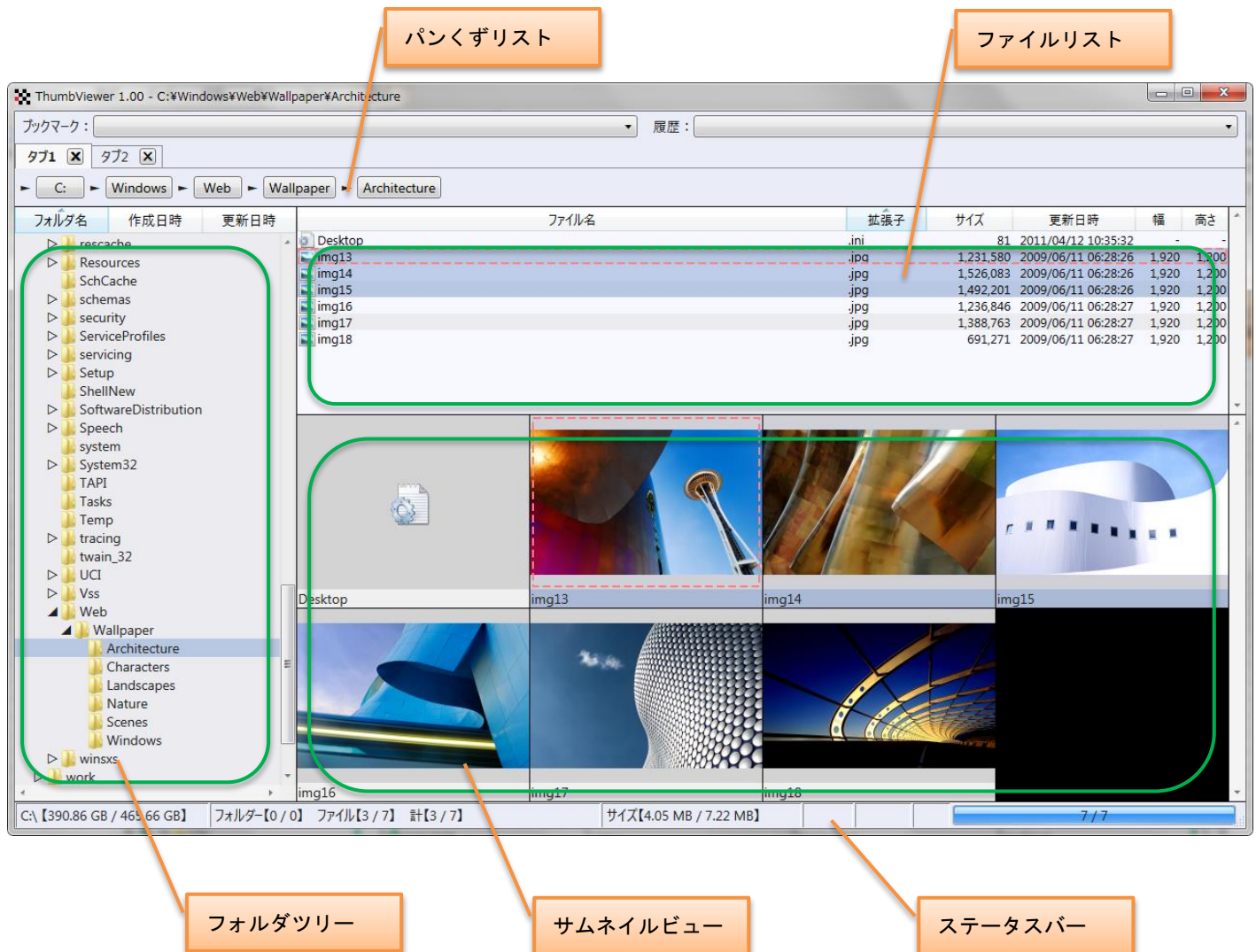


1 メイン画面



1.1 フォルダツリー

ドライブをルートとしてフォルダー一覧をツリー形式で表示します。

1.2 ファイルリスト

フォルダツリーで選択したフォルダ（カレントフォルダ）内のファイル、フォルダの詳細情報を表示します。

1.3 サムネイルビュー

カレントフォルダ内のファイル、フォルダのサムネイルを表示します。

1.4 パンくずリスト

ドライブからカレントフォルダまでのフォルダ階層を表示します。
クリックするとそのフォルダに移動します。

1.5 ステータスバー

種々の情報を表示します、以下左から。

- ドライブの空き容量/全容量
- ファイルリストに表示されているフォルダ数、ファイル数、合計数の選択数/総数
- ファイルリストに表示されているファイルの選択サイズ/合計サイズ
- 処理中表示、時間がかかる処理中は「処理中」と表示、表示中は操作できない
- フィルター表示、フィルタリングが有効な場合は「フィルター」と表示
- 再帰表示、サブフォルダ内の再帰表示が有効の場合「再帰」と表示

1.6 ツールバー

それ以外の余白部分を呼びます。

2 マウス操作

2.1 ツールバー

■ 左クリック

- ・ 左上隅, 右上隅
アプリケーションを終了します（最大化表示時のみ）。
- ・ 上端
アプリケーションを最小化します（最大化表示時のみ）。

■ 右クリック

ポップアップメニューを表示します（デフォルトでは未設定）。
設定は「[オプション-ツールバー](#)」から。

■ 中クリック

オプションを表示します。

■ X1, X2ボタン

ファイル操作ダイアログを表示します。

2.2 フォルダツリー, ファイルリスト, サムネイルビュー

ユーザがカスタマイズできます。

設定, 確認は「[オプション-マウス](#)」から。

3 キー操作

Escキー以外はユーザがカスタマイズできます。

設定, 確認は「[オプション-ショートカット](#)」から

■ Escキー

オプションを表示します。

4 D&D の動作

4.1 フォルダツリーのフォルダに D&D

そのフォルダにドロップします。
余白部分にドロップすると何もしません。

4.2 ファイルリスト, サムネイルビューにドロップ

■ フォルダにドロップ

そのフォルダにドロップします。

■ 実行ファイルにドロップ

ドロップされたファイルパスを引数にして実行します。

■ それ以外

カレントフォルダにドロップします。

4.3 ドロップの動作

ドロップ時の動作（コピー/移動/リンク）はユーザがカスタマイズできます。

設定、確認は「[オプション-マウス](#)」から。

5 オプション

5.1 メイン画面

- ファイル数が多いときに警告を表示する
ファイルリストのファイル数が「警告ファイル数」で指定した個数を超えた場合、処理を継続するか確認するメッセージボックスを表示します。
継続しないを選択すると処理を中止してファイルリストを空にします。
- 名前を数値順でソート
ファイル名でソートする際に、辞書順ではなく数値順に並べます。
例えば1～10をソートすると以下のようになります。
辞書順：1、10、2、3、4、5、6、7、8、9
数値順：1、2、3、4、5、6、7、8、9、10
- 最大スレッド数
並列処理の最大スレッド数を設定します。
CPUコア数より多い設定は無効です（CPUコア数で動作します）。
- ドラッグ開始を抑止する
クリックしてからD&D開始までを距離、時間で制限して、誤動作を防止します。

5.2 ツールバー

- ツールバーボタン
ツールバーにショートカットを割り当てたボタンを追加します。
 1. 「表示」にボタンに表示する文字を入力
 2. 「動作」で割り当てるショートカットを選択
 3. 「追加」ボタンを押す
 4. 「↑」「↓」ボタンで順番の変更
- ポップアップメニュー
ツールバーを右クリックで表示されるメニュー項目を設定します。
設定方法はツールバーボタンと同様です。

5.3 フォルダツリー

- サブフォルダ有無を常にチェック
オフにすると動作が早くなる可能性がありますが、格納している状態ではサブフォルダの有無が判別できなくなります（常にサブフォルダ有りの表示）。
- zipファイルをツリーに表示
フォルダツリーにzipファイルを表示して、フォルダのように内容を表示します。
- 実行でフォルダ移動する
ファイルリストでzipファイルを実行した場合に、関連付け実行ではなくフォルダ移動にします。
「zipファイルをツリーに表示」がONの場合のみ有効です。
- ドライブの表示除外
特定のドライブを表示しないまたは特定のドライブのみ表示します。
設定を変更したら、ツリー更新ボタンを押してください。
 - ・ 除外しない
すべてのドライブを表示します。
 - ・ ホワイトリスト
ONになっているフォルダのみ表示します。
 - ・ ブラックリスト
ONになっているフォルダは表示しません。
- 特殊フォルダの表示設定

デスクトップやユーザフォルダ等の特殊フォルダをフォルダツリーに表示します。
仮想フォルダについては[仮想フォルダ機能](#)参照。

5.4 ファイルリスト

- ファイルサイズに接頭辞を使用する
ファイルサイズをKB、MB等の単位を付けて表示します。
- ファイル情報表示設定
 - ・ 属性
ファイルの属性を表示します。
H：隠しファイル
R：読み取り専用
L：リンク（ショートカット、シンボリックリンク、ジャンクションのいずれか）
- サムネイル作成対象
サムネイル画像の作成を試みるファイルを指定します。
 - ・ 作成しない
すべてのファイルのサムネイルを作成しません。
 - ・ 指定の拡張子のみ作成
指定の拡張子のファイルのみ作成します。
 - ・ すべて作成 ※非推奨
すべてのファイルのサムネイルを作成しようとします。
サイズの大きいファイルがあると、作成が遅くなります。
- 保存ファイルを隠しファイルにする
サムネイルを保存するファイルを隠しファイルにします。
- フォルダ移動時にサムネイルを自動保存
カレントフォルダ変更時に、サムネイルをファイルに保存します。
サムネイル数が設定以上の場合のみ保存します。
- 保存ファイル名
サムネイルを保存するファイル名を設定します。
空白の場合、デフォルト名で保存します。
- 保存フォーマット
サムネイルを保存するフォーマットを指定します。
品質を大きくするとサムネイルは鮮明になりますが、ファイルサイズが大きくなります。

5.5 画像プレビュー

- Exifの画像方向情報を反映する
Exif情報にOrientationタグが含まれる場合、それに合わせて画像を回転させて表示します。
- 背景に画像を表示
プレビューの背景に表示する画像を設定します。
アルファチャンネル付き画像の確認等に使用できます。
画像は実行ファイルと同じフォルダに置いて下さい。
サンプルとして市松模様の“Check.png”が同梱されています。
- 見開き表示
見開きで表示するかどうかと、表示方向を指定します。
- マルチフレームを展開
マルチフレーム画像ファイルのプレビュー時に、各フレームを並べて表示します。
- 表示スクリーン
マルチスクリーン環境で、プレビューサイズの自動調整時や全画面表示時に、どのスクリーンに表示するか設定します。
自動選択にすると、現在のウィンドウ位置に基づいてスクリーンを決定します。

- ドラッグスクロールの方向を反転
ONにするとドラッグスクロールがタッチパネルのスクロールのような動作になります。

5.6 ショートカット

ショートカットのキーバインドを設定します。
プレビュー画面はマウスジェスチャーも設定できます。
各コマンドの詳細は「ショートカット一覧.pdf」を参照。

1. 動作を選択
2. 修飾キーとキーの組み合わせを指定、またはキーボードで入力する
 - ※ 2キーショートカットは、修飾キーを離さずに1個目のキーと2個目のキーを連続して入力してください。
途中で修飾キーを離すと入力はキャンセルされます。
 - ※ [Ctrl + A] と [Ctrl + A + B] のように、1キーショートカットと2キーショートカットで1個目のキーが重複するものは登録できません。
3. 追加ボタン
- 2'. ジェスチャーを選択する
3. 追加ボタン

5.7 マウス

マウスクリック、ドラッグ、ホイールの動作を設定します。
各コマンドの詳細は「ショートカット一覧.pdf」を参照。

5.8 フォント

各部のフォントを設定します。
※ 日本語フォントと英数字フォントを分ける場合、英数字フォントには日本語を含むフォントを指定しないようにしてください。

- ←に統一
すべてのフォントをそのフォントに変更します。

5.9 カラー

各部の色とアルファ値を設定します。

- 元に戻す
各部の設定を起動時の設定に戻します。

5.10 その他

- ブックマーク管理
ブックマークの追加、削除ができます。
フォルダをD&Dで追加できます。
- 外部ツール登録
ツールを登録して、ランチャーやバッチのようなことができます。

○ 登録方法

1. タイトルの入力
「タイトル」に登録ツール一覧に表示する名前を入力します。
空白にすると実行ファイルのファイル名が表示されます。
2. 実行ファイルの指定
「実行ファイル」にツールの実行ファイルのフルパスを入力します。
参照ボタンまたはファイルをD&Dで指定します。
3. 引数の入力
「引数」にツールを起動する際の引数を指定します。
タグを使用すると、ファイルリストで選択されたファイルの情報を挿入できます。
例えばファイルパスを渡したい場合、<P>を指定します。

4. 作業フォルダの指定

「作業フォルダ」にツールの作業フォルダ（カレントディレクトリ）を指定します。
参照ボタンかフォルダをD&Dで指定します。
空白にすると実行ファイルのフォルダになります。

5. 複数処理方式の指定

ファイルリストで複数ファイルを選択していた場合の動作を指定します。
引数にタグがない場合は無視して1回だけ実行します。

- ・ 順番に実行する
1個目の実行が終了したら2個目、2個目が終了したら3個目、のように1個ずつ実行します。
- ・ 同時に実行する
すべて同時に実行します。
- ・ 引数に列挙する
引数のタグに各ファイルを列挙して1回だけ実行します。

6. 管理者として実行

ONにすると管理者権限で実行しようとします。
Windowsの設定によっては確認ダイアログが表示される、失敗する場合があります。

7. 実行ボタン

○ 実行方法

1. ツールの選択

登録ツール一覧から、実行するツールを選択する。

2. 対象ファイルの選択

引数にタグがある場合、ファイルリストで対象のファイルを選択する。
タグがない場合は選択があってもなくても1回だけ実行される。

3. 動作確認

「動作確認」ボタンを押すと実行結果サンプルが表示されるので、所望の動作になっているか確認する。

4. 実行

「実行ボタン」を押す。

6 Exif 情報

画像ファイルのExifタグを表示します。

「オプション-Exifタグ情報表示」でダイアログが表示され、ファイルリストで画像ファイルをフォーカス状態にするとタグ一覧が表示されます。

7 ファイルリストフィルター

ファイルリストに表示されるファイルをフィルタリングします。

1. ダイアログの表示

「オプション-フィルター表示」でダイアログを表示します。

2. フィルター項目の追加

「フィルター項目を追加」でフィルターをかけたい情報を選択すると、列が追加されます。
複数の情報を組み合わせる場合、操作を繰り返してください。
右の「X」ボタンで列を削除できます。

3. フィルター項目の入力

各列でフィルター条件を入力します。通常は一致するファイルが表示されますが、反転をONにすると条件に一致しないファイルが表示されます。

4. 対象の選択

「対象」で対象を選択します。ファイルを選択した場合、フォルダは条件にかかわらず表示されません。

5. 結合の選択

複数の情報でフィルタリングする場合、「結合」でANDかORを選択します。

6. フィルター適用

「適用」 ボタンを押します。

7. フィルター解除

「解除」 ボタンを押します。

各列の「有効」 ボタンを押すことで列ごとに解除することもできます。

8 ファイル操作

ファイルリネームや新規作成等の操作を行います。
「オプション-ファイル操作表示」でダイアログを表示します。

8.1 リネーム

1個のファイルをリネームします。

1. リネーム対象の選択（ファイルリストから実行）
リネームしたいファイルをファイルリストでフォーカス状態（赤い枠）にします。
ダイアログの「フォルダ」と「現ファイル名」に対象アイテムの情報が表示されます。
- 1'. リネーム対象の選択（フォルダツリーから実行）
フォルダツリーのポップアップメニューから、「名前の変更」を実行します。
ダイアログの「フォルダ」と「現ファイル名」に対象アイテムの情報が表示されます。
2. ファイル名の入力
「新ファイル名」にリネーム後のファイル名を入力します。
「コピー」ボタンを押すと「現ファイル名」が「新ファイル名」にコピーされます。
拡張子を変更する場合、「拡張子を変更」をONにして拡張子を入力します。
3. リネーム実行
「リネーム」ボタンを押します。

8.2 新規作成

新しいファイルやフォルダを作成します。

1. 作成先の指定（フォルダツリー）
カレントフォルダ以外に作成する場合、フォルダツリーのポップアップメニューから「新規作成」を実行します。
「フォルダ」に作成先のパスが表示されます。
2. ファイル名の入力
「名前」に作成したいファイル名を入力します。
既に存在するファイル名を入力した場合、末尾に連番が付与されます。
3. 作成
「フォルダ作成」ボタンか「ファイル作成」ボタンを押します。

8.3 一括リネーム

複数のファイルを正規条件を使用して置換リネームします。

1. 対象ファイルの選択
ファイルリストでリネームしたいファイルを選択します。
選択されているファイルがない場合、ファイルリストの全ファイルが対象になります。
2. 置換対象部分の選択
「検索対象」で置換する部分を選択します。
「名前」を選択した場合、拡張子はそのまま保持します。
3. 検索パターンの指定
「検索パターン」に置換する部分を検索する正規表現パターンを入力します。
()でグループ化した部分は「置換パターン」で参照することができます。
空白にした場合、全体が置換対象になります。
4. 検索条件の指定
「大/小文字」で「無視する」を選択すると、英字の大文字と小文字を区別せずに検索します。
5. 置換パターンの指定
「置換パターン」に検索した部分を置換するパターンを入力します。
2.でグループ化した部分を\$1, \$2で参照することができます。
◇で括ったタグを指定することで、ファイル情報や連番を挿入することができます。

連番は<01>とすると01, 02, 03、<004>とすると004, 005, 006のように展開されます。

6. リネーム結果の確認

「プレビュー」ボタンを押すと現ファイル名と変更後ファイル名の一覧が表示されます。
所望する結果になっているか確認してください。
「変更後ファイル名」を編集して修正することができます。

7. リネームの実行

「実行」ボタンを押します。

8.4 テーブル出力

複数のファイル情報をテーブルにしてファイル出力します。

1. 対象ファイルの選択

ファイルリストで出力したいファイルを選択します。
選択されているファイルがない場合、ファイルリストの全ファイルが対象になります。

2. 列の追加

出力したい列の数だけ「列の追加」ボタンを押して入力欄を追加します。

3. 抽出パターンの指定

ファイル名の一部を出力したい場合、各列の「抽出パターン」に正規表現パターンを入力します。
出力したい部分はグループ化してください。

4. 出力パターンの入力

各列の「出力パターン」に出力したい文字、タグ、3. で指定したグループの参照（\$1, \$2）を入力します。

5. 出力結果の確認

「プレビュー」ボタンを押すと、結果が表示されます。
所望の結果になっているか確認してください。

6. 区切り文字の指定

「列区切り」に各列の間に入れる文字を入力します。

7. 結果の出力（クリップボード）

「クリップボードに格納」ボタンを押します。

8. 結果の出力（ファイル）

「ファイル名」を入力し、ファイルフォーマットをテキスト/xlsxから選択し、テキストの場合はさらにエンコード方式を選択します。
「ファイル保存」ボタンを押すとカレントフォルダにファイルを保存します。

8.5 時刻書き換え

ファイルの作成日時と更新日時を書き換えます。

1. 対象ファイルの選択

ファイルリストで書き換えたいファイルを選択状態にします。

2. 書き換え対象の選択

「作成日時」ボタンと「更新日時」ボタンで書き換えたいものをONにします。

3. 日時の入力

日時を入力します。
「現在日時を設定」ボタンを押すと、現在日時が入力されます。

4. 書き換えの実行

「書き換え」ボタンを押します。

8.6 パターン選択

指定したファイル（元ファイル）の情報を使用して条件を設定し、一致するファイルを選択状態にします。
先頭3文字が同じものを選択や、同じ番号が含まれるものを選択、ということが出来ます。

1. 抽出パターンを入力
「抽出パターン」に元ファイルから検索に使用する部分を抽出するパターンを入力します。
抽出する部分はグループ化します。
2. 検索パターンを入力
「検索パターン」に検索に使用する条件を入力します。
1. で指定したグループを\$1, \$2で参照できます。
3. 選択を実行
ファイルリストで元ファイルを指定します。
指定はデフォルトでX2ボタンです。「オプション-マウス」で変更できます。

9 仮想フォルダ機能

フォルダツリーに仮想的なフォルダを作成し、そこに実ファイル、フォルダを登録することができます。
ブックマークやプレイリストのように使用できます。

9.1 仮想フォルダトップの作成

仮想フォルダトップは「オプション-フォルダツリー-特殊フォルダの表示設定」から追加します。
「<仮想フォルダ>」のフォルダがフォルダツリー上に表示されます（デフォルトで追加されています）。
仮想フォルダはこのトップ以下にのみ作成できます。

9.2 仮想フォルダの作成

仮想フォルダトップをカレントディレクトリにして、[「ファイル操作-新規作成」](#)を実行すると、仮想フォルダが作成されます。

仮想フォルダは名前を<>で括って表示されます。
トップでない仮想フォルダ以下でも同様に作成できます。

9.3 実ファイルの登録

実ファイルを仮想フォルダにD&Dするとそのファイルが登録され、通常のファイルのように閲覧、実行できます。

元のファイルを移動、コピーすることはありません。

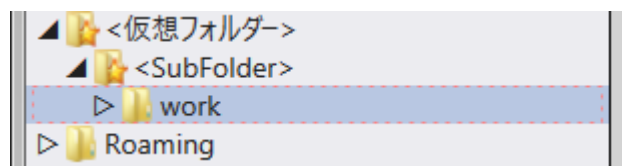
9.4 仮想フォルダの削除、実ファイルの登録解除

仮想フォルダをカレントディレクトリにして、削除を実行します。

元のファイルを削除することはありません。

仮想フォルダトップは、「オプション-フォルダツリー-特殊フォルダの表示設定」から削除します。

※仮想フォルダに登録された実フォルダ以下をカレントディレクトリにしている場合、削除は通常のファイル削除になります（以下のような状態）。



9.5 仮想フォルダのリネーム

[「ファイル操作-リネーム」](#)で仮想フォルダを対象にして実行します。

9.6 仮想フォルダのポップアップメニュー

- ・ 名前の変更

「ファイル操作-リネーム」が表示されます。

一時的にそのフォルダが対象になっているのでそのまま実行します。

ファイルリストでフォーカスを変更、ファイル操作のタブを変更すると対象が通常に戻ります。

- ・ 新規作成

「ファイル操作-新規作成」が表示されます。

一時的にそのフォルダが対象になっているのでそのまま実行します。

カレントフォルダを変更、ファイル操作のタブを変更すると対象が通常に戻ります。

- ・ 削除

その仮想フォルダを削除します

9.7 登録ファイルの移動/削除

登録している実ファイルの元ファイルを移動/削除した場合、仮想フォルダでファイルを見つけられず、無効なファイルとして表示されます（ファイルリストのアイコンがX）。

9.8 仮想フォルダの D&D

サブ仮想フォルダ、登録された実ファイルごとコピー/移動します。リンク作成は実行できません。
仮想フォルダのD&Dは実フォルダをドロップ先にできません。